

## 緑の避難島兼防潮島づくり

### (背景)

東北大震災津波以来大型の地震津波に備える防災対策が求められている。九州の当面は豊後沖や南海地震想定であるが、だからといって神奈川の湘南海岸で実施しているように、白砂青松のある大分や宮崎の海浜地、海水浴場などを含む九州の西海岸線の全般に渡って三内丸山遺跡のような鉄骨の避難建造物を次々設けるのでは景観を著しく損ね、九州の観光イメージ全体を壊しかねない。防災と景観の両方を満足させる地震津波対策が早急に求められている。

### (内容・効果)

宮脇横国大名誉教授が勧めている緑の防潮堤づくりを緑の島方式に改良し避難島づくりを進めてはどうだろうか。所要の場所に土をもってきて十メートル以上の高さの大きなマウンドを築き、そこに九州地域の潜在自然植生であるシイ、タブ、カシの苗を密植していくのである。苗はあらかじめポット苗に種をまき1メートルくらいになるまで育てておく。その種を宮崎の綾の森のものを集めて育てていくようにすれば話題性も増す。マウンドに苗を植えていく際、縁辺部に海風に強いトベラやサンゴジュ、キョウチクトウなどを混ぜて植えるとなお強い森になる。

十年過ぎればそれらの木も十メートル近くに育ち緑豊かな森となる。そうなればそこが避難先というだけでなく、津波を防ぐ緑の防潮島にもなる。根が深く伸び広く張った森の中は人々の散策が十分に可能で、新たな憩いの名所になる。